

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	おみそマッスル		
○保護者評価実施期間	2026年1月20日		～ 2026年2月3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	106名	(回答者数) 63名
○従業者評価実施期間	2026年1月9日		～ 2026年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育と集団療育を行いそれぞれの特徴を活かした療育を実施しています。	個別療育では個々に合わせた療育を行い、幅広い活動内容になっています。	会議や研修を通して職員の能力向上につなげていきます。
2	バスケットボールなどのスポーツを通して身体を動かしたり、麻雀を通して考える楽しさを感じたり、音楽に触れるなど多岐にわたるイベントを実施しています。	年齢に合わせて楽しめるようにイベントの内容を工夫しています。	新しい形のイベントを実施していく等、内容の充実を図ります。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
	子どもへのイベントを実施しているが、保護者向けのイベントは少ないです。	児童を中心とした内容のため、保護者向けの内容になりにくいです。	保護者が参加しやすい内容にしたり、保護者向けのイベント内容を検討します。
2	療育者によって療育のないようばらつきが出る場合があります。	職種の違いや経験によって差が生じています。	勉強会や研修を通して職員の個々の能力の向上が求められます。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果(児童発達支援)

事業所名 おみそマッスル

公表日

2026年 3 月 3 日

利用児童数

106 名

回収数

63 名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	60		3			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	63					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	43	12		8		建物の構造上、バリアフリーではない箇所がございますので、視覚的に分かるように環境を整えていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	58	5				毎日の清掃の他、気になる時はその都度対応できるよう適切な配慮を行っております。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	58	5				引き続き事業所での勉強会研修会や外部の研修に参加し、より良い支援を提供できるよう努めてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	58			5		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	63					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	60	3				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	60		3			必要に応じて活動の提案をし、計画に沿った支援ができるよう取り組んでまいります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	63					引き続き、より良い支援を提供できるよう努めてまいります。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	19	3	10	31		今後、地域連携を含めイベントなどを検討していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	63					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	63					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	44	5		14		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	60	3				引き続き、療育前後に保護者様とコミュニケーションを図り、お子様の状況を把握できるよう努めてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	53	7		3		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	60	3				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	30	5	7	21		保護者さまに向けての研修や地域交流のイベントなどで活動は実施していますが、今後積極的に実施していきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	50	3		10		療育前後にお話しをする機会を設けていますので引き続き相談等も対応していきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	63					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	41	3		19		イベントや避難訓練などの様子を保護者室にて貼りだしております。引き続き周知に努めてまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	60	3				セキュリティ対策評価制度の現在二つ星ですが三つ星を獲得していきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	31	10		22		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	3	3	38	物置やロッカーなど地震による転倒対策がされていない。	ご指摘いただきありがとうございます。今後安心してお過ごしいただけるよう早急に対応しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	43		6	14		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	34	3		26		事故発生時には迅速に対応できるようスタッフが周知し適切な対応ができるよう取り組んでまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	60			3		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	60			3	毎回通所を楽しみに通っていて先生たちの雰囲気も対応もすごく満足しています。息子の成長もすごく嬉しく思います。いつもありがとうございます。	大変ありがたいお言葉をいただきスタッフ一同励みになります。今後も満足いただけるように勉強会なども引き続き取り組みより良い支援が出来るように努めていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	58	5			園訪問や必要に応じて療育内容を柔軟に変更して下さるので、大変満足しています。小2までなのが残念です。対象年齢がもっと上がるというと思います。	今後の励みになるお言葉をいただきありがとうございます。お子さまの様子に合わせて支援できるよう継続し職員のスキルアップに努めてまいります。

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名 おみそマッスル

公表日 2026年 3月 3日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	5		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	1		定期的な清掃に加えて、必要に応じ各自が清潔で安全に過ごしていただける環境になるよう努める。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11		課題の途中でも、クールダウンが必要であれば個室に移動できるように迅速に対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	3		職員の意見を取り入れながら、振り返りを行い業務改善に努める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	3	都度、意見を言えるミーティングを実施している。年に2、3回個別面談で意見交換をする機会がある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	3		外部での評価実施はしていないが、評価してもらえる者と連携を取りながら業務改善に務めている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	2	勉強会、研修会の案内を職員に案内し、積極的に参加してもらっている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	1		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11		引き続きより良い支援が提供できるよう職員に共有し支援に取り組んでいきます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	1	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士などの多職種がいるため、各視点から課題やプログラムの立案をしています。	

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11		多職種連携しながら目的に沿ったプログラムの立案をチームで実施しています。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	2			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	2			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	1			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11			現在、大きな課題がある時には連携することが多いが、日常での連携をしていくシステム作りをしていきます。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11			直接情報共有が難しい場合は、書面や電話での情報共有を行っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	2			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	4			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9	2			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11				
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	3		家族が参加するイベントはあるが、研修会の機会は少ない。今後、家族支援の提供の方法を検討していきます。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	1			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	1		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	7		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10	1		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11		職員間でも確認し、留意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	3	兄弟が参加できるようなイベントも増やしていく。市の後援で地域の人々が参加できるイベントも実施しています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	1		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	4		必要に応じて対応していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		実際の現場で職員がいろいろな状況を共有し可能性のあることに対して検討し、環境整備やシステムを変更しています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11			研修会に積極的に参加し職員への周知を継続していく。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	2			

公表

事業所における自己評価総括表(放課後等デイサービス)

○事業所名	おみそマッスル		
○保護者評価実施期間	2026年 1 月 20 日		～ 2026年 2 月 3 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40 名	(回答者数) 22 名
○従業者評価実施期間	2026年 1 月 9 日		～ 2026年 1 月 23 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14 名	(回答者数) 11 名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2 月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職連携による多角的支援 保育士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が協働し、専門性を横断した支援を行っています。	日常的な情報共有の徹底 ミーティングに限らず、日々の会話や申し送りを通じて支援内容・課題を共有しています。	支援記録の質向上と共有の効率化 ICT活用を含め、記録と情報共有の精度向上を図ります。
2	担当制に偏らないチーム支援 特定職員に依存せず、チーム全体で利用者を理解・支援する体制を整えています。	保護者対応の属人化防止 特定の担当者だけでなく、複数職員が保護者対応できる体制を整えています。	園・学校との連携強化 情報共有の仕組みを整理し、外部機関との連携をより円滑にします。
3	柔軟性のある支援設計 一律の型に縛られず、利用者の状況に応じた個別最適な支援が可能です。	支援内容の振り返りと調整 支援後にチームで振り返りを行い、必要に応じて環境設定や関わり方を修正しています。	安全管理体制の再点検 広い空間特性を踏まえた環境整備と役割分担の明確化を進めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
	広い空間での安全管理の難しさ 活動の自由度が高い分、全体把握に負荷がかかる場面があります。	利用者数の変動による業務負担の偏り	役割分担の明確化と標準化の推進 支援の基本方針を共有しつつ、判断基準を明確にします。
2	外部機関連携の時間確保 園・学校との情報共有に十分な時間を確保できない場合があります。	業務(療育・記録・連携)の同時進行構造	安全管理のチェック体制強化 活動前後の確認フローを整備します。
3	支援の裁量幅の広さ 職員ごとの裁量が大きいため、一定の統一性の確保が課題となることがあります。	組織としての役割分担が発展途上であること	連携時間の計画的確保 外部連携を業務として位置づけ、時間確保を行います。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名 おみそマッスル

公表日

2026年 3 月 3 日

利用児童数

40名

回収数

22名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	4				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	22					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	4	4			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	4				定期的な清掃に加えて、必要に応じ各自が清潔で安全に過ごしていただける環境になるよう努める。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22					社内研修の充実を図り、より良い支援を提供できるよう努めてまいります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22					お子様一人ひとりに合わせた支援ができるよう引き続き努めてまいります。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	22					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13	9				お子様の状態に合わせ柔軟に対応できるよう職員研修なども行い取り組んでまいります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。			13	9		今のところ予定はございませんが、今後ニーズが増えるようであれば検討していければと考えています。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	4	4	4	今後は、家族支援プログラム（ペアレントトレーニングなど）があるとありがたいです。	個別でのご相談に対応しておりますので、必要であればお気軽にご相談ください。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	22					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22					支援計画書の更新に合わせ、定期的に時間を設けておりますが、それ以外でもご相談がある場合は時間を設けお話しさせていただきます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22					
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4		9	9	保護者同志が交流できる機会があるとありがたいです。	貴重なご意見ありがとうございます。イベントや研修の機会を作っているよう検討いたします。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	4				お子様やご家族様と普段からコミュニケーションを図るように努め、面談の希望があれば迅速に対応できるように努めてまいります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	4				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	22					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22					引き続き個人情報の取り扱いについて十分留意してまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13			9		各マニュアルは定期的に見直しや更新を行っております。職員間で訓練を行っており、保護者室内にて掲示もさせていただいております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13			9		定期的を実施しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13			9		安全管理計画を策定し、定期的にチェックも行っております。安全に留意し引き続き支援を行ってまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	4				迅速に対応できるよう引き続き職員に周知し、対応に努めます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22					
	29	事業所の支援に満足していますか。	22					引き続き満足して通っていただけるよう職員一同尽力してまいります。

公表 事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名 おみそマッスル

公表日 2026年3月3日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11		経験年数や専門資格を考慮し、バランスの取れた職員配置を心掛けている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11		毎日始業前に清掃を行い、特に触れる機会の多い場所は重点的に消毒している。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11		1つの広いスペースを利用しているため身体を動かしやすいが、クールダウンが必要時はパーテーションを利用している。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11			PDCAサイクルを職員が具体的に把握できるようにする。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1		職員に周知しより良い支援を提供できるように努める。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1	定期的にミーティング、面談を行っている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	3		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11		内容が偏らないよう様々な勉強会や積極的な研修への参加も促している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11			個別支援計画と活動プログラムの関連性が保護者に分かりにくい場合がある。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11			
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11			職員ごとの解釈にばらつきが出ないよう、計画の意図や目標設定に関する研修を強化する。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	1		業務都合上、全ての職員が揃うことが難しいこともあるので、普段のコミュニケーションを図る。

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11		季節の行事などを積極的に取り入れ、年間を通して新しい活動を計画している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	2		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11		記録は支援後すぐに入力し、支援内容と目標達成度を紐づけている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	2		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11		活動内容を複数の選択肢から選べるように提示する機会を多く設けている	支援者が提示した選択肢以外の自己決定を尊重する際のルールを策定する。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	2		関係機関との情報交換において、専門用語の多用を避け、共通理解を深めるための工夫。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	5		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	6		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	3		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	7		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	3	職員が役割分担をして、地域の協議会に参加し、情報収集や意見交換を行っている。	協議会で得た情報を、職員全体へ迅速かつ具体的にフィードバックする体制の強化。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	2		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11		計画書の内容を専門用語を使わず説明している。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11		相談があった場合は、迅速に対応している。	職員間で相談内容を共有し、組織として一貫した助言・支援が行える体制を強化する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	7		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11		苦情受付窓口を明確にし、苦情対応マニュアルに基づき、迅速な事実確認と対応を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10	1		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11		職員間でも十分に確認し留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	5		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	1	BCPIに基づき職員の避難訓練を実施し、備蓄品を定期的に点検している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	1		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	3		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		書類を作成し職員が周知し事業所全体をして取り組めるようにしている。	再発防止策が現場で定着しているかを確認・評価する仕組みが不十分である。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		虐待防止の研修会に参加し、「不適切な支援」に関する事例などを委員会を中心に検討している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	11			身体拘束に至る前の段階で、他の支援策を講じるための職員のスキル向上に努める。	